

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
【施策番号 24164：高速増殖炉サイクル技術の研究開発（文部科学省）】

- 1 日時：平成 22 年 10 月 1 日 : 13 : 40 ~ 14 : 20
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、白石議員、奥村議員、青木議員
外部専門家 3 名（うち若手 1 名）
- 4 説明者：文部科学省 研究開発局 原子力課長 篠崎資志 他
- 5 施策概要

安全性、経済性、資源有効利用性、環境負荷低減性、核拡散抵抗性の開発目標を達成するための革新技術の開発に重点を置いた高速増殖炉サイクル技術の研究開発を実施し、資源の乏しい我が国のエネルギー安定供給に貢献する。

6 質疑応答模様

【奥村議員】

もんじゅの運転停止は原因究明できているのか。

【文部科学省】

炉内中継装置を落としたこと。グリッパが上手く作動しなかったため。この原因はグリッパ爪を開閉する爪開閉ロッドの向きが問題であった。

【奥村議員】

いかなるミスであれ、信頼を損なう。今後起こさないための対策をとっているのか。

【文部科学省】

原因はほぼ明らかになってきたので、本日中間報告を公表した。落下した炉内中継装置を回収しダメージ評価を行う。その後に通常の点検に戻ってから立ち上げていく。

【相澤議員】

研究開発ステージと要求内容の対応関係について説明して欲しい。

【文部科学省】

実用化研究開発は実証炉等の概念設計のための研究開発を企業と共同しているもの。

もんじゅのデータを実証炉等の設計検討に反映するスケジュールになっている。本事業の概算要求額約 400 億円は単年度の予算。実用化研究開発に約 105 億もんじゅに約 217 億である。

【相澤議員】

常陽はこの期間にどれだけの予算が必要なのか。

【文部科学省】

常陽に係る概算要求額約19億円は、常陽を安全に管理するための費用に加え補修に関する費用を計上している。

【奥村議員】

常陽も大分古くなっている。老朽化した炉の寿命は、炉を補修していくことの費用とコストを長期的に見ると有利か。

【文部科学省】

軽水炉の寿命は40年くらいで、寿命延長も検討されているところであるが、常陽は33年なのでまだ寿命まで十分な期間がある。常陽の炉を使ったデータは実証炉等の研究開発に有益である。

以上